

第5回 基礎講座

アーティストと共創する上での視点を学ぶ

～アーティスト、子供、コーディネーターが「同じモノを見る」～

開催日時：2025年10月24日（金）18：00～20：30

場所：東京文化会館 中会議室2 東京都台東区上野公園5-45

講師：臼井 隆志 (ファシリテーター / アートエデュケーター)



講座のねらい

コーディネーターがアーティストや子供、施設の職員との間に立ち、橋渡し役として企画をまとめ上げるのに必要な視点を学ぶ。

講座の内容

1 経歴の紹介

児童館でのアートプロジェクト立ち上げから始まり、子供との場づくりに関わってきた経歴を紹介

2 今日の目的／グランドルール

コンセプト図をつくる活動を通して多様な視点を学ぶことを目指し、受講生同士が互いに異なる立場や視点を尊重しながら共に学び合う関係をつくる姿勢を、グランドルールとして共有

3 チェックイン：この講座に参加するに至ったセルフストーリー

受講生自身がこのプログラムに参加しようと思った背景と、子供とアーティストと一緒に場をつくることで「自分が明らかにしたい問い」を整理。コーディネーターとして自分自身が探究するテーマを可視化

4 事例紹介「アーティスト・イン・児童館」

アーティストと共創した児童館でのワークショップの実例をもとに「場」「子供」「アーティスト」「自分」の文脈をベン図に整理し、企画のプロセスを解説。それぞれの目的や思い描くイメージが重なり合うように調整することの重要性を強調

5 ワークショップ：同じモノを見る～フレームワークの作成～

受講生が自分の企画をベン図を用いて「場」「子供」「アーティスト」「自分」の4つの視点から課題を整理。グループで共有し、異なる立場からの多様な考え方や方法を吸収

6 チェックアウト・振り返り

プログラムを共創する上で、「アーティストを触発させることができるのか」という視点を持ち、つなぎ手としても自身の問いやテーマを磨き続ける大切さを解説



受講生の声（一部編集しています）

ただアーティストや施設を客観的に俯瞰して捉えて繋げるのではなく**自分のテーマとの交点を見出すことが重要**というお話が非常に印象的だった。

子供のことにフォーカスしがちな中で**「場」「子供」「アーティスト」「自分」という4つの関わり方を意識**していく発想は非常に新鮮だった。

「自分の中のテーマを磨き続ける」というお話から、企画をアウトプットするには、まず自分の中をよく見つめるが必要だと気づかされました。

「相手の目にどのように写っているかを想像し合うことで『同じモノを見る』ことが可能になる」という話で、一緒に体験し、対話することが大切だと思いました。

